日刊大分建設新聞　平成26年３月５日

診療所をリファイン

青木茂建築工房が見学会

施設内を見学する建築業者ら

大分市の㈱青木茂建築工房（青木茂氏主宰）は2月27日、同社がリファイニング（再生建築）工事を手がけた、福岡市東区筥松の高野胃腸科（19床）の完成見学会を開いた。福岡県内の住宅、設備業者など約40人が参加。

同医院は、築36年のＲＣ造3階建て延べ約９９９平方㍍。高野壮史院長は「時が経つにつれ、エレベーターがない、トイレが不便などの問題が出てきた。患者さんに迷惑はかけられないし、移転はしたくない」と、友人を通じて同社に相談。耐震、設備改修、間取り一新、バリアフリー化などすることにし、リファイニングによる地域医療施設の再生が始まった。

診察しながらの工事のため、施工性、コスト、診察のしやすさを考慮し、状況に応じた工程図に従って、管理、診療、病室部門を階の移動を繰り返しながら施工。エレベーター新設、エントランスのやり替えでバリアフリー化、2階病室の拡張、3階に食堂を新設するなど一新した。

外観は、玄関やエレベーターの外壁に、スパンドレル（鉄板）を使い、耐久性やデザインを表現。院内は天井の白色とドアなどの木目にやわらかい色合いを出している。

高野院長は「有床診療所は、社会の縮図だ。ソフト面でどうしていくか、患者のニーズにどう応えるかをスタッフとともに話し合った。なんでも相談できる、離島や田舎にあるような診療所にしたい」と話していた。